

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	172001042		
法人名	医療法人 北光会		
事業所名	グループホーム朝里		
所在地	小樽市朝里2丁目6番18号		
自己評価作成日	令和5年3月2日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JikyosyoCd=0172001042-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和5年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が運営しているグループホームなので、入居者様が体調を崩した時は朝里中央病院へ連絡し、昼夜問わず対応してもらえる。また週に2回看護師が来る為、入居者様に特変があれば指示を仰ぐことができる。グループホームから徒歩で5分程のところ公園があり海も見える。グループホームの横には畑があり、野菜を育てたり花を植えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム朝里は2006年3月に小樽市朝里地区に開設しています。事業所横には国道が通り、バス停まで徒歩1分、JRの快速停車駅や高速道路のインターチェンジも数キロ圏内という交通便に恵まれた立地です。地域は有名な温泉地で商業施設や飲食店も多い反面、海が望める住宅地でもあり、日常散歩で立ち寄る公園は緑豊かな環境です。法人母体は同地域にある医療法人で、当事業所のほか複数の高齢者施設等を傘下に持ち、介護事業部では接遇・身体拘束防止・看取りなど様々な研修を主催し、支援の質向上に取組んでいます。利用者を尊重した自立支援や、地域でその人らしい生活を支えるという理念を持ち、管理者の指導の下、その実践に向けて職員が協同して様々な提案や工夫を重ね利用者の暮らしを支えています。日々の支援は利用者の思いや言葉とともに詳細に記録し、適切な介護計画作成に繋がっています。コロナ禍では利用者が事業所内で心地よく過ごせるよう、湿度の管理のほか換気徹底や衛生保持に注力しており、安心・安全・健康な暮らしを提供しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホールと玄関に提示し、月1回のミーティングの場で理念を読み上げ共有し理念をもとに支援するようにしています	利用者のその人らしい生活を支えるという理念は玄関ホールと各ユニットに掲示しています。ミーティング時に実施している唱和が形骸化しないよう、管理者は具体的な日常支援を通して、理念の実践を職員に説いています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で地域の方との関わる時間が取れていませんが以前はイベント時に来設して頂いたり、町内の運動会に参加していました	コロナ禍で積極的な地域交流は控えています。町内各委員会の議事録や地域広報誌の配付を通して町内会役員との情報交換を継続しています。コロナ禍の収束を見据え、町内会活動への働きかけを模索しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は町内の方にイベント時や避難訓練時に来設して頂き入居者様と関わって頂いたり支援方法など周知していました		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議を開催し以前は町内会の方に参加して頂いていましたが現在は感染対策の為内部で行う事が多く議事録を町内の方へ配布し支援方法など周知しています	運営推進会議は現在、職員と利用者からのみで2か月に一度開催し、事故報告や諸連絡、運営状況を確認しています。家族、町内会役員、地域包括職員など他の構成員には、議事録と同時に次回案内と意見・感想を求める書面を送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことがあれば、相談したり事業所の情報をお伝えし、良い関係を築けるよう努めています	介護認定や生活保護、ワクチン接種を含む感染症対策など小樽市の各担当者と都度連絡を取っています。今年度はケアマネ不在となり人員配置等を相談しアドバイスを受けるなど、事業所の実情を伝え協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な内部研修や日頃から職員間で情報共有し職員1人1人が身体拘束になる行為を理解し身体拘束をしないケアを実践しています	3か月ごとに開催している身体拘束等適正化対策委員会は職員のほか利用者も参加して、確認が必要な支援について意見交換をしています。年2回の事業所内研修のほか、法人主催の研修も毎月実施されており、身体拘束をしないケアの理解の徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回会議を行い各階で情報共有したり日頃から職員間で話し合い虐待防止に努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見人制度利用されている方はいませんが制度について理解して必要に応じて成年後見人制度を活用出来るよう支援しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に面接を行いニーズ等の確認をして契約時に重要事項説明書を読み疑問や不安がないか確認して納得していただいています		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人から日常の中でコミュニケーションを取りながら希望や要望を聞いています ご家族には電話や手紙でやり取りしてご本人やご家族の意見を職員で共有しています	利用者からは日々の支援や、運営推進会議のなかで行事等に関する意見を聞いています。家族とは毎月の通信や運営推進会議議事録配付時、電話連絡や面会など都度の機会を利用して忌憚ない意見を募っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からミーティングや申し送り時に意見交換し定期的に会議を行い全職員で意見交換する場を設けています	管理者は職員と積極的にコミュニケーションを取り、常に意見や提案をしやすい環境となっています。コロナ禍では換気方法など感染対策に様々な提案があり、令和5年3月まで感染者発生なしという効果をあげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護統括と管理者で定期的に個人面談があり就業状況等の確認をし改善出来るようにしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修は感染対策の為出来ていませんが毎月の内部研修や定期的に法人の研修がありスキルアップの機会を作っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	相互研修はコロナウィルスの影響で行えていませんが通常時は相互研修に参加しています		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面接に行き本人の困っていることや要望を傾聴し安心して生活していただけるよう努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の要望等聞きまた入居後もご家族と連絡を取り関係性を築けるようにしています		
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスの利用はないですがご家族の要望を聞き必要としている支援が出来るよう対応しています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事での食器拭きや洗濯物干しなど入居者様が見つけ出来ない部分は支援しコミュニケーションを取り関係を築いています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には毎月手紙で体調の変化等を伝えていきます面会時や電話にて要望等を聞き関係性を築いています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様からご家族に連絡したいと訴えがあった時は電話し会話が出来よう支援しています	面会や外出に制限がある中、職員が昔話を引き出し、馴染みの人や場所への思いを展開させて記憶が途切れないように支援しています。家族との面会は予約制やリモートなどコロナ禍の状況を見ながら柔軟に対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と同じテーブルの席にしたりお手伝いを通して入居者様同士が関わり合い協力出来るよう支援しています		
22		○関係を断ち切らない取組サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も出来る限り相談を受けられることを伝え関係性を大切に支援しています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取り1人1人の思いを傾聴し希望や意向を反映出来るよう努めています困難な時は家族様に相談し把握出来るようしています	可能な限り入居前に利用者で面会して希望や意向を確認しています。また家族から得た情報等も含めアセスメントを取り、その人らしい暮らしの実現に繋げています。利用者が入居後も思いをうまく表出できるように場面設定に努め、把握した意向は職員が共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様や家族様にこれまでの生活歴をお聞きし普段の生活に近づけ安心して過ごしていただけよう努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体操や軽作業を通し体調の変化や筋力の低下がないか観察し職員間で情報共有しています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様に要望をお聞きし3か月毎に介護計画を作成しています 著しい体調の変化があればその都度介護計画の変更を行っています また会議などで職員から出た意見も反映しています	各担当者が確認したアセスメントやモニタリングをミーティング時に照らし合わせ、利用者本人・家族の意向を基に、計画作成担当者が原則3か月ごとに介護計画を作成しています。計画の実践は日々、介護経過記録に記載し、状態に変化があった際は随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のプランに基づき普段の様子を把握し変化があれば記録・申し送りで情報共有し実践や介護計画の見直しつなげています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナウィルスの影響で面会は予約制となっておりますが検温や体調の確認部屋の換気を行った上で面会を入居者様が少しでも安心して家族様と会えるよう行っています 医療機関と連携し良いサービスができるよう努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウィルスの影響の町内のイベント等には参加できていませんがホーム内での夏祭りや外での焼肉等楽しみにつなげるイベントを提供しています		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様や家族様にニーズを確認して継続的に診療を受けていただくよう支援しています かかりつけ医と連携し体調に変化があった場合はすぐに指示を仰いでます	入居前からのかかりつけ医への通院は家族が行っており、家族からの送迎の要望に応えるなど、継続受診の支援に努めています。半数の利用者が利用している法人母体の病院をはじめ各医療機関とは、利用者の病状や服薬内容などの情報を共有しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に2回来られるのでその際入居者様の近状や状態を報告し指示を受け必要に応じて受診しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は病院に状況等確認し早期に退院できるよう情報共有しています 受診時等にご本人様の様子を医師に伝えています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針をご説明しています ご本様やご家族様の意向を確認できる範囲で支援を行っています	「重度化・看取りに関する指針」を入居時に利用者・家族に説明して同意を得ています。マニュアルを整備し、職員研修を重ねていますが、開所以来看取りの経験はありません。管理者は今後のニーズ増加に備えて、訪問診療医との連携を模索しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で急変や事故に対して話し合い日頃からマニュアルを確認しています		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナウィルスの影響で町内の方には参加して頂いてませんが年に2回消防や小樽防災の方に参加して頂き避難訓練を行っています	今年度の避難訓練は消防指導の下、令和4年7月と令和5年2月に夜間火災想定で実施しています。地震や停電、雪害などの災害リスクに備え、法人の栄養士が保存食の準備・保管に協力しています。法人本体が事業継続化計画に着手しており、完成が待たれます。	災害時は徒歩圏内にある法人母体の医療機関への避難を予定していますが、避難ルートや避難手段の確認・訓練は未着手です。事業所が抱える課題が事業継続化計画に反映するように、計画の策定に積極的に関与することや、冬季の災害リスクへの十分な対応を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し日頃から言葉遣いや態度には十分気を付けるようにしています	利用者を尊重した支援の向上を目指し、半年毎に、全職員がチェックリストで自己評価しています。利用者に不快感を与えないように、声のイントネーション・速さ・語尾の柔らかさを重視した声かけを実践しています。接遇研修を重ねて実施し、職員の理解浸透に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でコミュニケーションを多く取り笑顔で接するようにしています また自己決定できるよう働きかけを行っています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	1人1人のペースに合わせたケアを心がけご本人様の希望に沿えるよう支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前に衣類を選んで頂いたり起床時等に整容や身だしなみを整えています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様に食器拭き等のお手伝いをして頂いています 誕生日方に何が食べたいか要望をお聞きし食事を楽しめるよう支援しています	朝夕の食事は配食サービスを利用し、昼食は職員手作りで提供しています。利用者がリクエストする切干し大根や飯寿司、芋の塩煮などの献立にも都度応えるなど、「食の満足感・楽しみ」を大切にしています。利用者が食器拭きを手伝う際は、衛生管理に配慮しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食やとろみをつけるなど入居者様に合った食事形態で提供しています 食事量や水分量の確認をしています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを出来る部分はご本人様に行って頂き、仕上げ介助や歯間ブラシを使用し介助行っています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの排泄のパターンに合わせトイレ誘導したりオムツを使用している方に対しては時間毎確認しています	排泄一覧表に全利用者の一日の排泄状況を記録した後、個別の経過記録に転記しています。バイタルや食事・水分の摂取量等も同時に記録し健康状態を確認しています。排泄パターンを把握して声替え等を工夫した結果、オムツ等の使用量が半減したケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の確認や水分提供したり体操に参加して頂き便秘の予防に取り組んでいます		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	入浴を楽しめるよう入浴剤を使用し気分転換を図っています 出来る範囲希望に沿えるよう支援しています	一人ひとりの利用者の希望やタイミングを図り、週2回以上の入浴を目安に支援しています。脱衣室ドアの内側にカーテンをつけ、プライバシー配慮に努めているほか、職員シフトの関係で同性介助が困難な時は、湯あみ着を着用してもらい羞恥心に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣に合わせて休息して頂き安眠できるよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々に個人ファイルがあり薬情には薬の目的等が記載されていて確認できるようになっています 服薬方法はマニュアルに沿って行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	身体状況に合わせ洗濯物干し等のお手伝いをして頂いたりレクなどを行い気分転換できるよう支援しています		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウィルスの影響で外出レクは出来てませんがホームの駐車場で焼肉をしたりお散歩へ出掛けています	感染対策で外出に制限がある中、身近で花見が出来る様に花壇に桜を植え成長を楽しんでいます。少人数の近郊ドライブは継続していますが、コロナ禍の収束を見据えて、利用者の希望を聞くなど遠方の外出先も検討しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご自分で管理されている方もいますがほとんどの方は管理するのが困難でホームで管理しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から訴えがあれば電話をかけたりホームにはリモート面会が出来るようにタブレット端末があります		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は季節毎に飾り付けを行い毎日消毒や換気を行っています 年に2回大掃除をしたり気が付いた汚れはその都度掃除し快適に過ごせる空間を作っています	対面式キッチンとリビングは採光が良く、広い回廊とともに開放感があります。4カ所のトイレは全て便座の向きが異なり、それぞれの利用者に合わせて介助が可能となっています。利用者が安心安全に過ごせるよう、湿温度・換気・衛生環境等を常に管理しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道は気の合う方同士で座って頂きテレビが見やすいようにテーブルの位置を変えています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビや仏壇ご家族様の写真等を置きましたご本人様と相談しながら居心地よく過ごせるようにしています	利用者が自身の居室を把握できるよう、居室入り口に笑顔の写真を掲示しています。室内には使い慣れた家具や寝具は動線を考慮して配置し、利用者が居心地よくテレビ視聴や趣味の時間を過ごせるよう、衛生環境の維持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室がわかるように張り紙やネームプレートを取り付けています 迷っている方がいれば声掛けや誘導しています		